資料1-4

※黄色セルは
R4年度との変更箇所

非稼働病棟における今後の運用計画について

医療圏	No. 資料1-3で医療機関に付した番号に相当	医療機関名 ※緑：再稼働予定 紫：病床削減予定	（病棟単位の）非稼働病床 病床機能 病棟名	R2(2020)	R7(2025)	再検討結果	該当の病床数 病棟単位	医療圏計	①非稼働の理由 常時 人材不足等	期間限定 コロナ関連	施設整備等	その他 稼働・運用中	その他	②当該病棟の今後の運用見通しに関する計画 （ア）再稼働予定	（イ）病床見直し・削減等 病床機能転換等	病床削減・廃止等	その他（病床以外）	補助制度等 制度周知	活用意向	（ア）・（イ）の実施時期（年度）	（ウ）現状維持	（ア）～（ウ）で予定する病床機能　等 高度急性期	急性期	回復期	慢性期	未定・検討中	地域において担うべき医療機関及び病床の役割等 （回答必須・記述式）	今後の運用計画等に係る調整会議の合意	備　考
取手・竜ケ崎	18	秋田医院	—	急性期	急性期	急性期	10	185	●					●									●				分娩再開に向けて人材確保して周産期体制を整えていく予定		「(ウ)現状維持」に●がついていたが、様式Ⅳから急性期病床として再稼働予定。訂正依頼中
	19	あおぞら診療所	—	慢性期	慢性期	軽症急性期	4			●			●			●		●	●	R7									病床削減時期：R6⇒R7
	20	丸野医院	—	休棟中等	休棟中等	休棟中等	19		●				●			●		●		R7									・非稼働の理由： コロナ⇒人材不足等 ・補助制度等の活用意向： 有⇒無
	25	野村医院	—	休棟中等	休棟中等	休棟中等	9						●	●				●		未定						●	婦人科短期使用目的		
	8	牛久愛和総合病院	B4	休棟中等	急性期	急性期	32		●					●	●			●		R6		●	●				産科病棟から他診療科病棟へ変更使用出来るよう改修工事を検討。他の診療科としては、救急搬送件数は、2023年実績で年間3,819台で救急医療を中心とした急性期医療の提供が地域への役割であり、地域からの必要とされていると捉えている。また、ドクターカーの運用を2022年度に開始し、より高度化した救急や感染症対策も視野に、一部の病床２床をHCU病棟へ移設も検討中。		過剰である急性期へ再稼働予定。
	10	東京医科大学 茨城医療センター	本館A病棟	休棟中等	休棟中等	休棟中等	43				●			●	●			●								●	大学病院として医師の育成と地域への医療貢献を役割としている。施設の老朽化に伴う南病棟の早急な建替え・改修計画の策定に際し、財政面を見据えつつ、本館B病棟を急性期病床、次に本館A病棟の病床機能を検討していく予定。		
			本館B病棟	休棟中等	急性期	急性期	38																●						過剰である急性期へ再稼働予定。
	1	ＪＡとりで総合医療センター（新規）	新棟5階病棟	急性期	急性期	急性期	30		●					●	●			●		未定			●				コロナ対応の為、小児科病棟（30床）を休床していたが、現在も看護師不足の為再稼働出来ずにいる状態です。 看護師が充足すれば再稼働したい。		過剰である急性期へ再稼働予定。